



世界遺産への登録をめざす

武家の古都・鎌倉ニュース

Vol.26

冬号/Winter 2013

第26号 平成25年(2013年)1月発行
発行：鎌倉世界遺産登録推進協議会
編集：広報部会 編集人：内海恒雄

◆世界遺産条約採択40周年記念 最終会合開催報告◆

「武家の古都・鎌倉」未来への課題

平成24年11月6日から8日まで、ユネスコの世界遺産条約採択40周年記念最終会合が、日本政府主催・ユネスコ世界遺産センター協力により、国立京都国際会館で開催されました。開催準備・運営にあたった文化庁世界文化遺産室長の小林万里子さんに、大会で発表された京都ビジョンの内容について聞きました。

持続可能な地球と世界遺産

昨年11月に再び世界遺産委員国に選出された日本は、世界遺産条約への関与の一環として大会を開催し、議論をまとめて京都ビジョンを発表しました。これは大会の成果文書で、「持続可能な地球と世界遺産の役割」と「コミュニティの役割の重要性」を軸にしたものです。ユネスコには途上国が多く、開発と対立するように思われるがちの世界遺産自体も世

界の持続的発展に貢献するものとして位置付けるべきだといった議論もなされました。

登録の可否が決まるまでの鎌倉の役割

基本的に、大きな意味での保全の取り組みは、これからもずっと続けなければいけないことです。ただ具体的な取り組みとしては例えば、世界遺産の推薦に合わせて動きが出ているガイドンス施設整備の課題などは登録までに着実に進めていく必要があるかと思います。

鎌倉の課題

文化遺産行政をささえていくような埋蔵文化財調査・研究のための鎌倉市の体制をさらに強化した方がいいという声は、専門家の先生方からも出ています。鎌倉には、いろいろ重要なものがあり、専門家も含めた周囲からの関心も強い分、行政の制約がある中でも、十分な取り組みが期待されます。

同時開催

市民団体主催による

【世界遺産条約40周年及び日本の批准20周年記念シンポジウム】

日本政府主催の最終会合にあわせて、40周年記念と日本の条約批准20周年を記念した市民シンポジウムが、同じく京都市内で開催されました。主催の「市民シンポジウム実行委員会」は、三都市民共同フォーラムが全国の景観保全や世界遺産登録に取り組んでいる団体に呼びかけて結成されたもので、会合には全国から約120名が参加しました。開会にあたり、片方信也実行委員長は、保全に市民が主体的に関わる意義と大切さを訴え、ユネスコの最終会合に向けてアピールするとともに、来年登録の可否が決まる鎌倉を支援しました。

シンポジウムでは、埋め立て架橋計画見直しの運動を成功させた鞆の浦、登録延期を経験した平泉、登録可否を来年に控えた鎌倉からそれぞれの取り組みが報告されました。また奈良、京都からは登録資



会場で説明する神奈川県教育委員会世界遺産登録推進グループリーダー榎沢規彰さん。

産の保全管理問題についての報告がありました。

鎌倉からは12名が参加し、推進協議会の卯月文さんは「鎌倉の登録準備報告を聞いた会場の参加者から、『武家の古都』という意味が容易に理解できなかつたが説明を聞いてほぼ納得したと声をかけられ、まずは安堵しました」と報告を寄せてくださいました。